

委員の御意見

【高橋部会長】

- 「Ⅲ.3 宇宙政策の目標達成に向けた宇宙プロジェクトの実施」の中で、「デジタルイゼーション」及び「ウイズコロナ・ポストコロナ社会発展への貢献」に直接結びつく技術開発項目・プロジェクトをもう少し明確に表現できないか。
- 評価軸及び関連指標について、改めて読み直すと、実施項目ごとの目標を具体的に設定すると、もっとわかりやすくなると思われる。実施項目ごとに目指す姿、目指すレベル、実現したい成果等をできるだけ具体的に表現するように、今後関係各部署とも相談し、部会で議論できれば。

【古城委員】

- 中長期目標と中長期計画の原案の作成は大変な作業だと思う。それぞれを比較しながら読んだところ、記述が詳細になっていることは評価するが、両者の相違がわかりにくい。両者の記述に重複が多く、目標における計画の位置付けを確認して、両者の記述をもう少し整理した方がよいのではないか。目標の達成に対してどのような計画を立てて遂行していくのか、ということだと理解している。
- 国立開発法人審議会でも指摘された研究プロジェクトの推進にあたり「人材の登用や育成の視点」「外部登用のみならず内部登用による組織活性化の視点」を考慮するという点を、計画の中にもう少し入れてもいいのでは。Ⅲ.6.2 の人材育成は、指摘されている人材育成とは異なる観点のことなので、他の箇所(具体的なプロジェクトの計画などにおいて)入れてもいいのではないか。民間事業者との協業については重点を置かれており、人材育成については宇宙科学・探査の箇所では記述されているが、他の項目の計画では触れられていない。人材育成が必要なところはないのか。
- 同様に、国立開発法人審議会でも指摘されている点だが、社会実装を目指す短期的な取組にシフトして、基礎研究や基盤的な取組の停滞が懸念されているため、短期的視点と長期的な視点を意識して計画を記載するとよいのではないか。長期的な視点に立つ計画では、年次評価では最終年までの達成のプロセスが評価されるような評価ができる。

【中村委員】

- 宇宙基本計画 p.20 にある宇宙科学・探査の「学生や若手研究者を始めとする多様な人材が宇宙科学・探査プロジェクト等に参加する機会を提供する」ことは、人材育成の観点から非常に重要であるため、中長期目標・計画中に明記すべきである。

- 宇宙基本計画 p.18 にある宇宙科学・探査の基本的な考え方である「失敗を恐れず挑戦できる環境作りを重視する」点は非常に重要であるため、中長期目標・計画中に明記すべきである。

以上